

わが国の独居認知症高齢者数について

東京都健康長寿医療センター研究所

栗田 主一

認知症高齢者の性・年齢階級別有病率と認知症高齢者数の将来推計

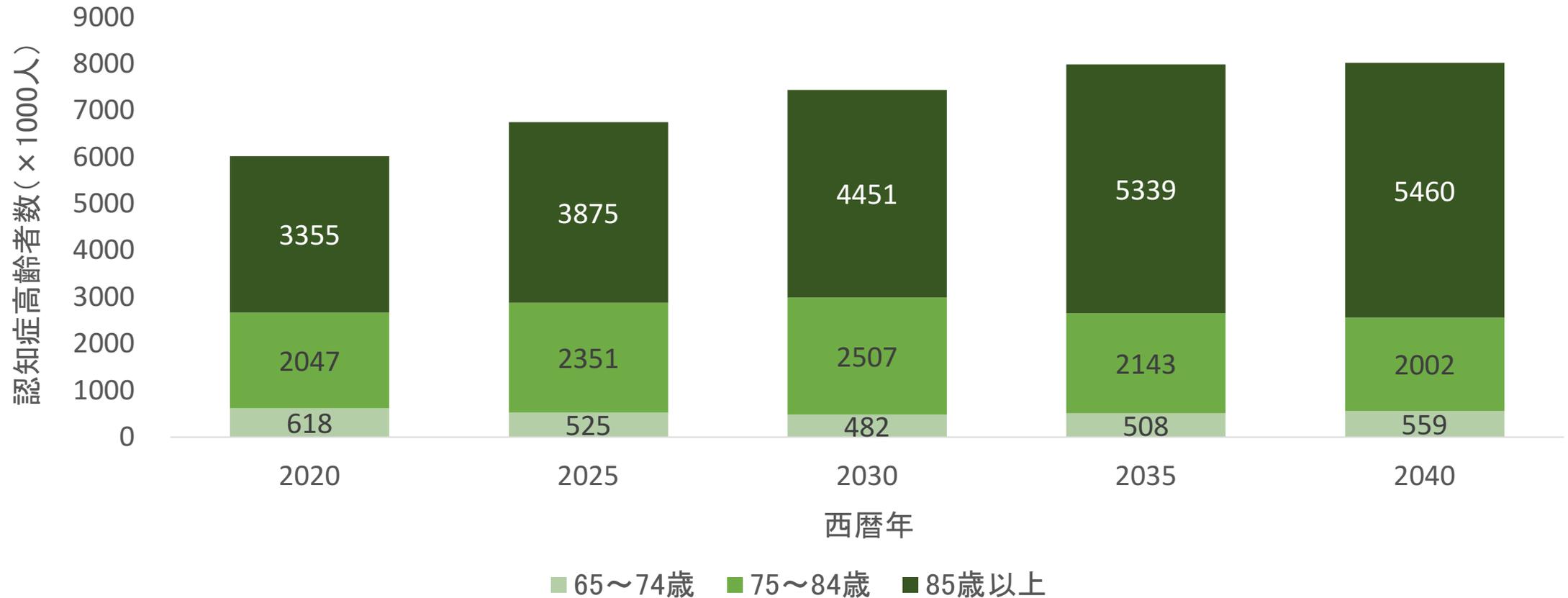
	年齢階級	有病率(%)	95%CI
男	65～69歳	1.94	1.44-2.61
	70～74歳	4.30	3.31-5.59
	75～79歳	9.55	7.53-12.12
	80～84歳	21.21	16.86-26.68
	85歳以上	47.09	37.09-59.77
女	65～69歳	2.42	1.81-3.25
	70～74歳	5.38	4.18-6.93
	75～79歳	11.95	9.57-14.91
	80～84歳	26.52	21.57-32.61
	85歳以上	58.88	47.69-72.69

年	認知症高齢者の推定数(万人)		認知症の推定有病率(%)	
	2012	462	(369-578)	15.0
2015	517	(413-647)	15.2	(12.2-19.1)
2020	602	(482-754)	16.7	(13.3-20.9)
2025	675	(541-844)	18.5	(14.8-23.1)
2030	744	(596-929)	20.2	(16.2-25.2)
2035	799	(640-998)	21.4	(17.1-26.7)
2040	802	(642-1001)	20.7	(16.6-25.9)
2045	788	(631-985)	20.4	(16.4-25.5)
2050	797	(638-995)	21.1	(16.9-26.4)
2055	826	(662-1031)	22.8	(18.2-28.4)
2060	850	(681-1061)	24.5	(19.7-30.6)

二宮利治:「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」平成26年度厚生労働科学研究費補助金総括・分担研究報告書(研究代表者:二宮利治)より引用。1985年～2012年に久山町で実施した調査のデータベースを統合して算出した、認知症の性・年齢階級別有病率

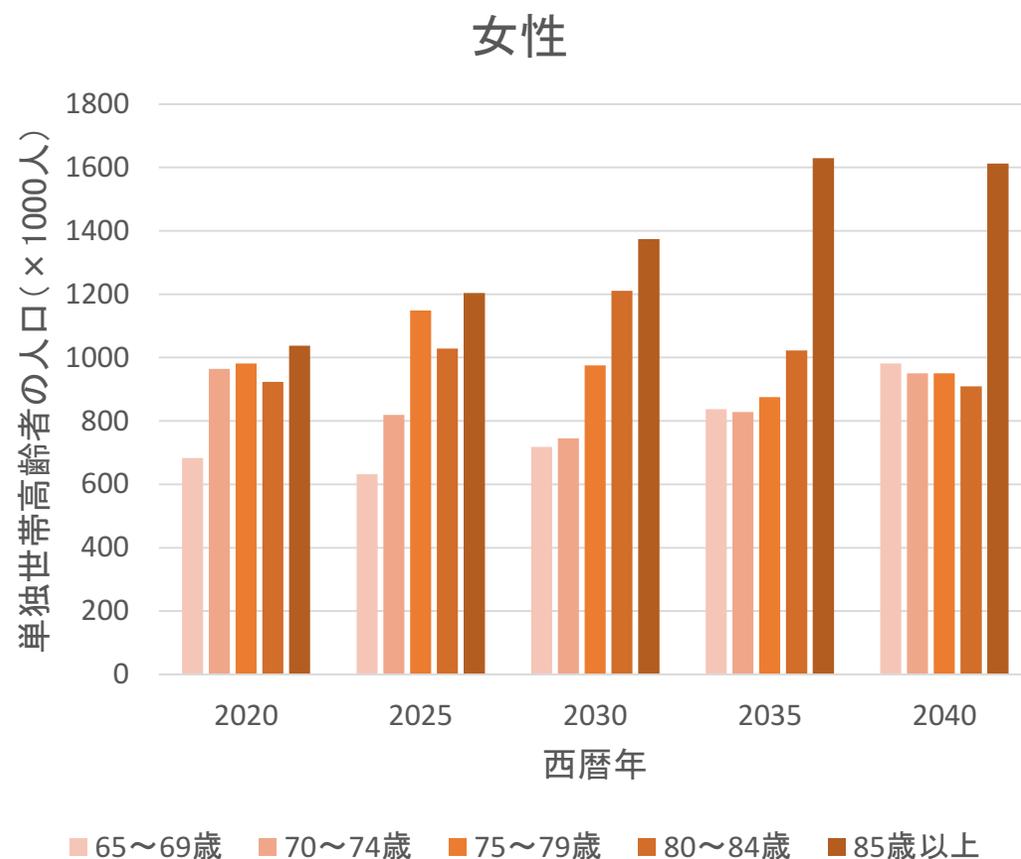
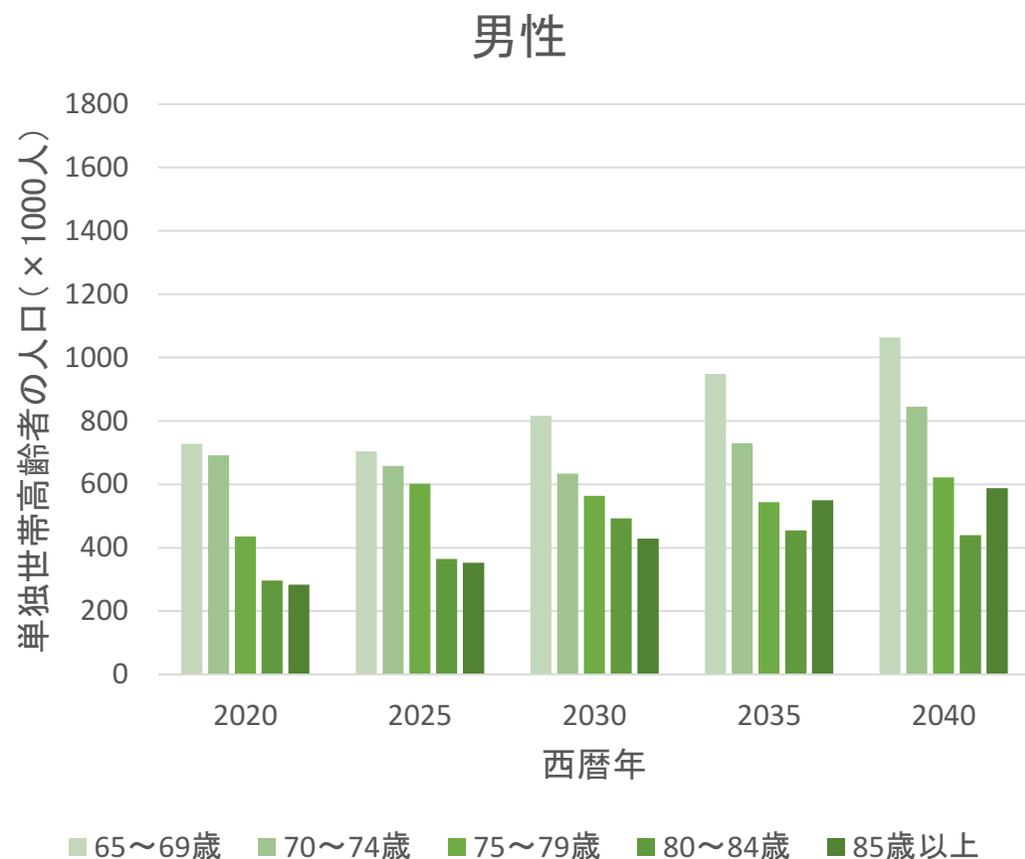
二宮利治:日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究。平成26年度厚生労働科学研究費補助金総括・分担研究報告書(研究代表者:二宮利治)より引用。左表の性・年齢階級別有病率と国立社会保障人口問題研究所の年齢階級別将来推計人口の積和を求め、さらに厚生労働科学研究(朝田班)の全国調査で報告された2012年の認知症高齢者数で補正した場合のわが国の認知症高齢者数の将来推計値(性・年齢階級別有病率が不変と仮定した場合)。

認知症高齢者数の性・年齢階級別将来推計



先に示した性・年齢階級別有病率と国立社会保障人口問題研究所の「日本の将来推計人口」(2017年推計)の性・年齢階級別将来推計人口との積和を求め、さらに二宮らが示す認知症高齢者数の将来推計値で補正した場合のわが国の年齢階級別認知症高齢者数の将来推計(性・年齢階級別有病率が不変と仮定した場合)。栗田主一:老年精神医学雑誌31(5):451-459, 2020.

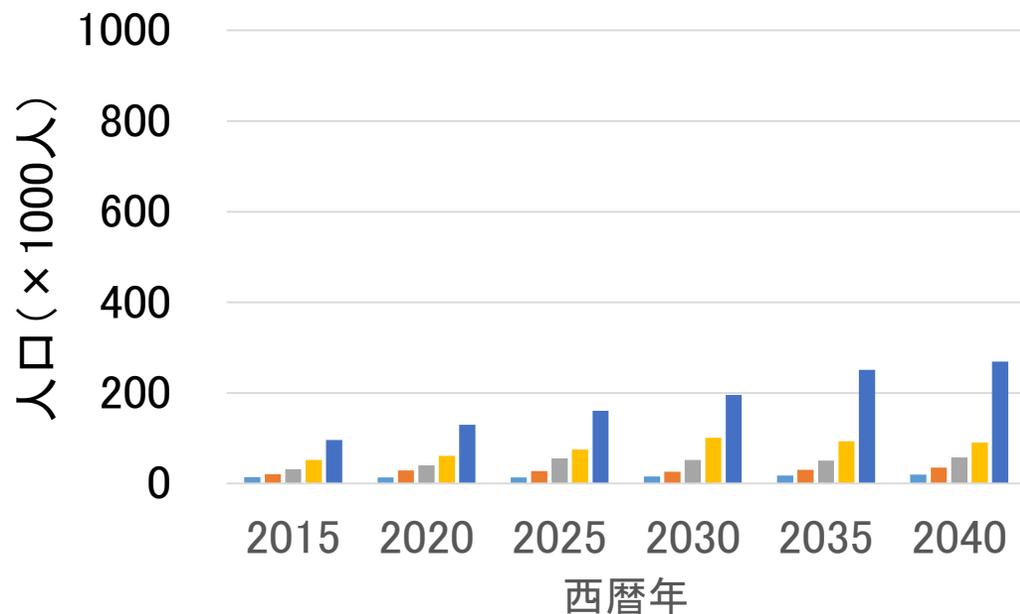
性・年齢階級別単独世帯高齢者人口の将来推計



国立社会保障人口問題研究所の「日本の世帯数の将来推計」(全国推計)(2018年推計)における性・年齢階級別単独世帯高齢者人口の将来推計

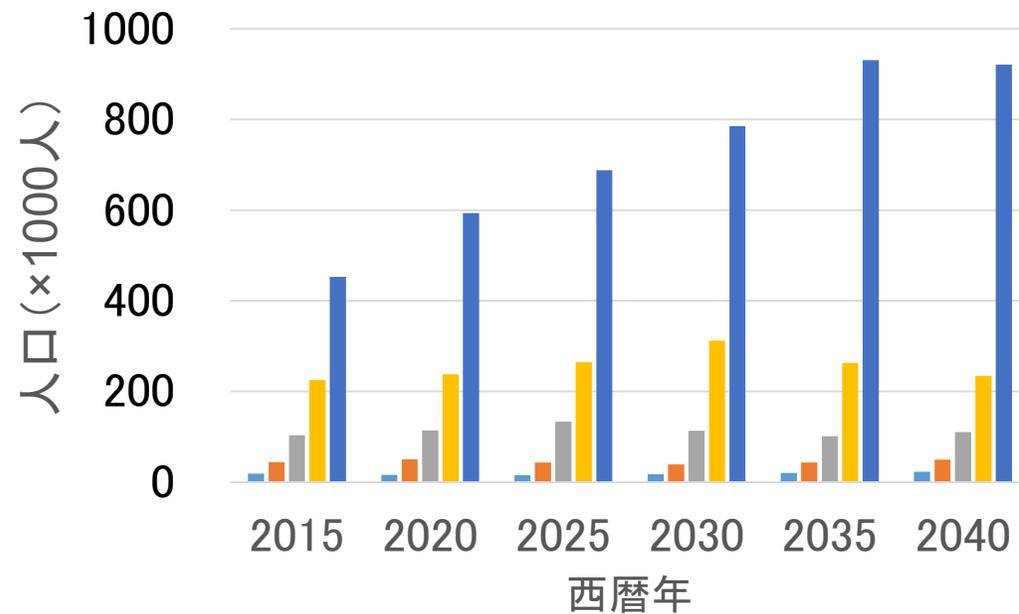
性・年齢階級別単独世帯認知症高齢者数の将来推計

男性



■ 65-69歳 ■ 70~74歳 ■ 75-79歳
■ 80-84歳 ■ 85歳以上

女性



■ 65-69歳 ■ 70~74歳 ■ 75-79歳
■ 80-84歳 ■ 85歳以上

先に示した性・年齢階級別有病率と国立社会保障人口問題研究所の「日本の世帯数の将来推計」(全国推計)(2018年推計)における性・年齢階級別単独世帯高齢人口の将来推計値との積和を求め、さらに二宮らの示す認知症高齢者数の将来推計値で補正した場合の性・年齢階級別単独世帯高齢者数の将来推計(性・年齢階級別有病率が不変と仮定した場合)(注:認知症であり、かつ単独世帯である場合には、施設移行のリスクが高まることが確認されているので、実際の有病者数はこれよりもやや低くなるものと考えられるが、85歳以上の単独世帯認知症高齢者数の将来に向けての増加の勢いはこのグラフに準ずるものと予測される)。栗田主一:老年精神医学雑誌31(5):451-459, 2020.